令和5年2月28日

The World Citizen

令和４年度 第２回学校評価保護者アンケートの結果と改善策について

Webページ上での実施が定着し、全校で539人（72.2%）の保護者の方にご回答をいただきました。皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。昨年度から生徒も一人一台のクロームブックを活用しての実施となりました。アンケートの集計結果がまとまりましたので、お知らせいたします。お寄せいただいた貴重なご意見をもとに、来年度の教育活動の工夫・改善に努めていきたいと考えております。今後もよろしくお願いいたします。

＊集計結果は、生徒・保護者の「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」の合計割合(%)です。

	評価項目	第2回集計結果 前期	第2回集計結果 後期	今後に向けての改善策
1	子どもは家庭や地域でも自分から進んであいさつをする。	89	85	感染症対策を講じた上で、「すべての基本は挨拶から」「心を開いて相手にせまる」という挨拶の持つ力や意味を理解し、より多くの教職員が生徒に声かけできるように、あらゆる場面で行う。
2	子どもは家庭で、学校での清掃活動の経験を生かしている。	70	67	破損した用具の交換や、清掃用具不足の解消にも力を入れ、清掃する環境作りをすることも必要である。また、引き続き「保健だより」「学年通信」の他、環境委員による「環境新聞」でも清掃の大切さ、環境整備の必要性を伝えたい。
3	子どもは学校が好きである。	90	83	感染症対策を講じた上で、朝の奉仕活動等を通して生活(学習)環境を整備し、「環境が人を変える」ので生徒が自身の可能性を広げることができる環境を整備するとともに、生徒と生徒、生徒と教師のよりよい人間関係の構築を目指す。
4	子どもは英語や外国文化に興味がある。	87	87	現在の取組を継続しつつ、4技能に加えて5領域目（発表力・伝える力）を意識した授業を行い、ICTを有効に活用して生徒の知的興味関心を引き出す取組を実践していきたい。
5	イングリッシュキャンプやスピーチコンテスト、海外修学旅行などにより、子どもの国際コミュニケーション能力は高まっている。	84	77	スピーチコンテストを初めとする行事において、コミュニケーション・内容の両面でより質の高い発表ができる生徒を育てられるよう、英語科全体で指導方法の改善を図る。
6	学校は、授業や学校行事を通じて我が国の文化・伝統に触れる機会を設けている。	89	81	生徒が日本、世界の文化・伝統を学習していることを意識できる授業を展開し、授業研究・FEWC推進部から示されたカリキュラムマップの改善にも努める。
7	子どもたちには、確かな学力身についている。	85	84	授業アンケートを個々の生徒の理解度の正しい把握に活用するとともに、コロナ禍での授業、定期考査、課題内容等を見直し、一人一人の生徒が自分の持つ力に応じた学習が展開できるよう指導の改善に努める。
8	英語や数学の少人数学級は生徒の学力向上に効果がある。	94	93	形式的な指導に陥らないように、常に複数の目で授業実践を見直し、少人数指導のメリットを指導する側、生徒の側、ともに実感できる授業を目指す。
9	子どもは、自分なりの目標をもって学習に取り組んでいる。	84	87	県貸与のパソコンに搭載されているスタディアプリのより一層の活用を含め、個に応じた学習への対応を各教科・学年で研究していく必要がある。
10	子どもは、毎日家庭学習に取り組む習慣が身についている。	74	78	中高一貫校における学力の二極化という現状を克服すべく、適切な課題の課し方について、授業改善と関連させて全教科・学年で検討する。
11	子どもの様子から、子どもは先生との信頼関係が築けている。	85	83	コロナ禍において、全職員で全生徒の言動を特に注視、情報共有し、「全職員が全生徒のことを大切な存在だと想い」「すべては生徒の成長(健全育成)のために」迅速かつ適切なタイミングで積極的支援を行なう。
12	学校生活を通して、子どもはクラスの友人とよりよい人間関係を築いている。	93	93	コロナ禍においても現在の取組を継続しつつ、「クラス全体が1つの家族だと想って」互いの価値観を認め合い、互いに高め合える集団を目指していく。
13	子どもは自分の健康に留意して生活している。	81	80	手洗い、消毒、マスク着用、換気が定着し、新しい生活様式が実践できている。今後は、この習慣の継続に加え、ストレスへの適切な対応ができるように指導を行う。
14	子どもは、部活動や委員会活動に積極的に取り組んでいる。	91	79	本校の部活動、委員会活動に意欲的な生徒もいる。取組の様子がより周囲へ伝わるよう工夫したい。また、特別活動の意義を学校生活全般にわたって生徒が実感できるよう、新たな取組に着手する。
15	学校はいじめ防止に努め、いじめが発生した場合にも解消してくれた。	85	84	コロナ禍において特に差別、偏見、誹謗中傷がないよう現在の取組を継続しつつ、いじめの定義を周知徹底し、いじめの認知を積極的に行なっていく。その上で、いじめは「人の尊厳にかかわること」「人として絶対に許されない」「被害者は最後まで守りぬく」という基本姿勢を貫き、よりきめ細かい対応として生徒への面談等を実施し関係を密にしていく。
16	子どもは、自己を理解したうえで将来の職業を選択しようと考えている。	87	89	＜基礎期＞生徒一人ひとりが興味・関心を抱くテーマを自己認識し、自らの学習意欲を向上させる支援を行う。 ＜充実期＞生徒一人ひとりが自己の適性を認識し、将来の目標となりうる職業を意識する支援を行う。 ＜発展期＞文理選択や科目選択をふまえ、生徒一人ひとりが自己の学習計画を立案・実行する支援を行う。
17	子どもは、自分自身の進路に関する意識を有している。（後期課程のみ）		92	
18	子どもの進路希望を理解している。	82	91	感染状況により対面での実施が難しい場合には、動画配信をするなどして、その内容を保護者に提供する。
19	学校から、生徒・保護者に必要な進路情報の提供を受けている。	74	84	各学年通信に学習時間調査の結果や学力推移調査等の結果を掲載し、各家庭で保護者と生徒が進路に関して話し合うテーマを提供する。
20	進路講演会や進路関連行事は、子どもの成長が伺える機会であり有益である。	85	85	年間計画に従って3月に実施される全校の保護者を対象とするPTA進路学習会において、進路情報を提供する。
21	学校のwebページには、新しい情報が定期的に載っている。	80	80	県教育委員会のDX（デジタルトランスフォーメーション）推進を受け、Webページの内容についても、保護者及びWebページを閲覧する側のニーズを把握し、学校の行事や授業の様子、学年通信、図書館だより等の随時更新を心掛ける。
22	保護者向け学校行事は、子どもの成長が伺える機会であり有益である。	91	90	様々な機会を捉えてながら保護者のニーズに応えられる行事が企画できるように努力する。
23	学校は、適切に文書やメール等で連絡してくれる。	84	84	一斉メールのあり方を常に振り返りながら、必要な情報が過不足なく伝達出来るように引き続き努力する。
24	学校はPTA（保護者）と連携し、奉仕活動などの地域活動を行っている。	70	72	これまでの取組を効果的に継続し、引き続き奉仕活動、地域活動の実態を周知するよう努力する。
25	担当する授業でクロームブックを活用している。	96	94	クロームブックの有効活用の方法について、今後も最新の研修情報を共有し、教員同士が各自の経験をお互い自分のものとできるように研修をより充実させ、授業にフィードバックする。
26	交通安全教室や防災避難訓練は子どもの安全意識向上に役立っている。	92	90	全校生徒を対象に交通安全教室を行い、HR、学年集会、全校集会(放送)等で、「常に当事者意識を持ち、自他共に命を守る行動をすること」を指導する。ヘルメット着用を呼びかけるとともに、本校の事故事例報告や傾向と対策を周知し、常々注意喚起をしていく。
27	学校の施設・設備は整備され、安全である。	86	83	職員、生徒の複数の目での安全点検を行い、危険箇所があれば、速やかに報告、改善できるようにする。

第２回学校評価保護者アンケート自由記述について

多くの貴重なご意見やご提案をいただいております。ご協力いただき、ありがとうございました。少数意見の中にも全体につながる貴重な意見があることを認識し、一つ一つ解決に向けて検討し、学校運営に生かしてまいります。